2026 年 11 月 13 日

各　位

会 社 名　株 式 会 社 i s p a c e
代表者名　代表取締役 C E O　袴 田 武 史
（コード番号：9348　東証グロース市場）
問合せ先　取締役 CFO 兼 事業統括 エグゼクティブ　野 﨑 順 平
（TEL. 03-6277-6451）

ミッション 3 ランダー「ULTRA」の基本設計審査（PDR: Preliminary Design Review）プロセスの完了に関するお知らせ

当社は、2028 年に打上げを予定※するミッション 3 にて使用するランダー「ULTRA」（以下、「ULTRA ランダー」）について、重要な開発マイルストーンであるエンジン変更を反映したシステム全体の基本設計審査（Preliminary Design Review、以下「PDR」）を完了したことを、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. ミッション 3 にて使用する「ULTRA」ランダーについて

(1) ULTRA ランダーの概要

当社は、2023 年 10 月に、経済産業省が実施する SBIR 制度「中小企業イノベーション創出推進事業」における宇宙分野の「月面ランダーの開発・運用実証」テーマに、予算額（補助上限）120 億円の補助対象事業として採択を受け、2028 年[i]に打上げを予定するミッション 3 を初号機とする「シリーズIII ランダー（仮称）」の開発を進めていました。

その後、2026 年 3 月に、世界的に高まる月面開発需要を背景に、顧客のミッションクオリティと開発効率への期待に応えるべく、「シリーズIII ランダー（仮称）」を改め、日米ランダーを統合したモデル「ULTRA ランダー」の開発に着手するとともに、エンジン変更についても発表しました。現在は、2026 年 11 月 12 日公表のプレスリリース「ispace、Nammo と長期的な推進系サプライチェーンの強化および 調達協力に向けた覚書を締結」のとおり、Nammo 社のエンジンへの変更を反映し、開発を進めています。

「ULTRA」ランダーは、ミッション 2 で運用した「RESILIENCE」ランダーより大型化された本格的商業化モデルであり、ペイロード積載可能容量は約 200kg、機体サイズは高さ約 3.6m、幅約 3.3m（着陸脚を広げた状態）、重量は無燃料時約 1,000kg となる見込みです。

(2) ランダー開発の進捗

当社のランダー開発では、「段階的プロジェクト計画法におけるシステムエンジニアリング活動」を採用しています。各開発フェーズで必要な作業プロセスが完了した段階で、その結果について技術審査を行い、次の開発フェーズへの移行可否を判断しています。今般、ミッション 3 にて使用する「ULTRA」ランダーについて、エンジン変更を反映したシステム全体の PDR が完了しました。

今回の PDR では、「ULTRA」ランダーへの搭載を発表した Nammo 社のエンジンへの変更を踏まえた推進系全体の設計に加え、質量、電力、Delta-V などを含むシステム全体としての設計成立性および設計ベースラインを確認しました。また、エンジン変更に伴う各サブシステムにおける設計への反映と計画についても確認しました。

今回の PDR の完了は、ミッション 3 の「ULTRA」ランダーのシステム全体としての基本設計フェーズの完了を示すものであり、これにより、当社は詳細設計の段階に向けて開発を進めてまいります。

2. 今後の見通し

今回の PDR の完了を受け、ミッション 3 の「ULTRA」ランダーの開発は基本設計の段階から詳細設計の段階へ移行します。今後は、PDR で確立した基本設計をもとに詳細設計を行い、詳細設計審査（CDR: Critical Design Review）の完了を目指します。その後、ミッション 3 で実際に使用するフライトモデルの製造および各種試験を経て、打上げに向けた準備を進めてまいります。

以上

---

i 当初 2027 年中の打上げとして経済産業省及び SBIR 事務局と合意しておりましたが、2026 年 11 月時点では当社内の開発計画上、2028 年内の打上げとなることを見込んでおります。本変更については今後、関係省庁及び SBIR 事務局と調整中の段階であり、最終的には経済産業省により正式に計画変更が認可されることとなります。